

<https://youtu.be/u97a3ks2tvs>

『あわれみ深く』 おはようございます、ようこそ。日曜日の朝の節ごとの聖書の学びを始めます。先週、私達は第二テサロニケを学び終えました。そして今日から新しい書、第一テモテへの手紙を始めます。今日の学びの箇所は、1 章 1 節～2 節です。まだ開いておられない方は、第一テモテをお開き下さい。ここにいらっしゃる皆さん、可能であればお立ちいただき、私が読みますから、目で追ってください。ご無理であれば、そのまま結構です。使徒パウロはテモテへ 聖霊によって手紙を書いています。

1 節、まず自己紹介からです。

第一テモテ 1 章

1 私たちの救い主である神と、私たちの望みであるキリスト・イエスの命令によって、キリスト・イエスの使徒となったパウロから、

私たちの「唯一の」望みである と加えてもいいでしょうか？

2 信仰による、真のわが子テモテへ。父なる神と私たちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安がありますように。

共に祈りましょう。主よ、あなたの御言葉と、今日私たちの前にある 御言葉の中のこの箇所に心から感謝します。主よ、聖霊によって私たちの注意を引き、 私たちを集中させてくださいますように。私たちがあなたの御言葉に専念できるよう、 また私たちの心がさまよったり、気が散ったりしないよう助けて下さい。今日あなたが私たちにご用意くださったことを 逃すことがありませんように。主よ、このたった二節の中で あなたが私たちに語って下さるものを 本当に楽しみにしています。イエスの御名によって。アーメン。アーメン。お座りください。ありがとうございます。今日私がお話ししたい事は、私がロスト・アート（失われた技術）と見なしているものについてです。クリスチャンの優しさと同情心で、人々に対して憐れみ深く接することです。実は、私はこの数ヶ月間、このことについて考えていて、私はこの一つのトピックのみに 説教の全体を捧げたいと感じ、 そう言ったことさえありました。ですから、これがおそらくその説教です。私は優しさについて話したいのです。私は同情心について話したいのです。私はあわれみ深くする事について 話したいのです。私たちが生きているこの時代は、人々にあわれみ深く接する代わりに、クリスチャンが他の人たちと争い、 議論するような時代です。私が牧師として持っている最大の懸念事項の一つは、 SNS 上でのクリスチャン同士の争いだと 告白せねばなりません。それは私が抱えている深刻な懸念です。それは非常に気がかりであり、非常に心配なことです。皆さんは、オンラインで、 未信者がクリスチャンを見ているという事を 理解せねばなりません。彼らはそれらの投稿を読んでいます。私が尋ねねばならない質問は... 私はそれを皆さんと主の前で自分自身に問います。私が問わねばならない質問は、 私が主をどのように代表しており、また、私がどのような主の証人であるのか、という事です。自分が SNS に投稿する際に、誤解しないでください。私達は信仰のために戦います。私たちは皆に、私たちの内にある その希望の答えを与えます。しかし、言うなれば、識別力の要素とでも言うものがあるのです。私達が生きているこの時代に、 何としても必要なものです。彼らは答えを求めているのか、それとも、 議論をしたいのかを見極める事が出来るように。改めて告白しておきますが、私は みんなと同じように喧嘩が好きなんです。誰かが私たちの YouTube チャンネル

にコメントを投稿したら、、、ああ、大変！あら、あら。「本気で言ったんじゃないよね？」「いやいや、そうなんだよ。」そして、私の聖化は私から逃げ去る。。。秘訣は手首。キーボードから火が噴き出して！私は注意せねばなりません。本当は私はそんな事しません。そんな風に見ないで下さい。皆さんの何人かは、「え～、牧師先生、知りませんでした！」そうじゃなく、私は本当は、信じられないかもしれませんが、私はもうほとんど Facebook を利用していません。以前、私は自分で認めたくないくらい、頻繁に Facebook を使用していた時期がありました。でも、私は大体において、それを避けています。ツイッターも同じです。何が起きているのかを把握するのに、ニュースフィードは見ます。YouTube は、…言うまでもなく、多くのコメントが投稿されますが、だれかが自殺の話をしているか、自殺について尋ねているのでない限り、私たちは関わりません。自殺の話であれば、私たちは非常に迅速に応答します。とにかく私が言いたいのは、信者として 私たちが非常に気を付けなければならないという事。なぜなら、私たちが好むと好まざるに関わらず、より良い言葉が見つかりませんが、私たちはイエス・キリストの広告塔なのです。そして、世界は私たちを見ている。使徒パウロが言うように、私たちは生きる推薦状なのです。私たちは、人々が読む生きた手紙なのです。（2 コリント 3:2-3 参照）

人々は、私たちの人生という手紙を読むのです。そして、彼らは私たちの人生と キリスト教の信仰について 2 つのことを自問しています。まず最初の彼らの質問は、「それは本物なのか？」 「あなたは本物なのか？」 「それとも他の人と同じ？」そして、彼らが尋ねる 2 番目の質問は、おそらくもっと重要なもので、「それは上手く行くのか？」そして、ここがポイントです。彼らは、あなたが本物である事、そしてそれが上手く行く事を望んでいるのです。なぜなら、それが 実際には上手く行き、本物であるならば、彼らにはそれが本物であり、上手く行くものである必要があるのです。彼らはイエスを必要としているから。彼らは、希望を探し求めています。私たちが今日生きている世界では、特に。それが私の話したい事なのです。優しさ、思いやり、あわれみ深さについて 話したいのです。ふつうは、私が「ビッグ 3」と呼んでいる「この世、悪魔、肉」というものだけで、クリスチャンには戦うべきもの、対処すべきものが十分にあると思うでしょう。私たちはそれだけで毎日 忙しいだろうと思うものでしょう。しかし、そこにキリストにある兄弟姉妹との戦いを 加えるのは、惨事を招く行為です。それはまさにサタンが望んでいる事です。彼の戦略、もっと言えば、効果的な戦略の一つは、彼の汚い仕事を彼のために、また彼の代わりにクリスチャンたちにさせるように仕向けることです。彼がリラックスして、見物できるように。彼は私たちがお互いに戦い、お互いに貪りあい お互いに破壊することを望んでいます。まるで教科書通りの典型的な「一石二鳥」の例です。その表現をお許してください。しかし、彼が最初に成し遂げたことは、私たちを互いに破壊し合わせ、互いに貪り合わせる事です。そして第二に、彼は未信者にこう言させたのです。「ほらね。」と。つまり。。。「クリスチャンはこんな風に見えて、こんな風に振る舞って、こんな風に投稿するのか？」いいえ、結構です。お断りします。ヨハネの福音書 13 章 34-35 節で、イエスが仰っている事に耳を傾けてください。

ヨハネの福音書 13 章

34 わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

それが源であり、それが鍵であり、言わばそれが秘訣です。神から来るその愛が、私たちがお互いを愛することを可能にするのです。私は結婚当初の頃のこの話を お話したことがあります。私は大変偽善的で、うぬぼれが強く、霊的にとても高慢でした。ある時、妻にこう言いました。私はそれはすごく奥

深くて、すごく深くて、妻はすごく祝福されるだろうと思いました。私は彼女にこう言いました。

「ハニー♡僕は、君を愛しているよ。神だけが与える事の出来る愛で。」そして私は彼女が「まあ♡私も本当に愛してるわ。」と言うのを すっかり期待していました。違ってました。彼女は妻だけにしか出来ない顔つきで、私を見て、こう言いました。「あなたが言っているのって、あなたは。。。私ってそんなに愛し難いの？ あなた自身では十分に愛せないってこと？ 神があなたに私への愛を下さらないと、私を愛せないってこと？」そして、彼女は泣き始めました。そして私の方は。。。「何????」奥様方、ということなのか、あなたがたが どうしてそう思うのか、私には分かりませんが、ご理解ください。私たち男には理解できないのです。だから、あなた方に何か言われると 私達は固まってしまって、犬が何かを 理解していない時のような表情するんです。全く訳が分からないみたいに。「さてさて、私はこれに どう答えるべきなのか？」と。奥様方、どうか私たちに憐れみ深くしてください。お願いです。お願いするのはそれだけです。しかし、私が妻に言っていた事は真実です。そして、私は結婚式を行う前に、すべての新郎にこの事について話します。と言うのも、考えてみたら、それはかなり難しい注文だからです。エペソ 5 章「夫たちよ。妻を愛しなさい。」パウロは「妻を愛せ」と 3 回言います。最初の時はこう言います。

「キリストが教会を愛し、教会のために ご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。」
(エペソ 5:25 参照)

私はアウトです。

「同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように 愛さなければなりません。」 (エペソ 5: 28 参照)

歩きながら、自分の容姿に関心を示さない男性に、私はまだ会ったことがありません。ね？ 3 度目にパウロは言います。

「夫たちよ。妻を愛しなさい。自分の体を愛するように、愛しなさい。」

それから、パウロが言うのはただ... それは大変アンバランスで不均衡なんです。なぜなら、彼は 3 回も言います。「夫たちよ。妻を愛しなさい。」 「夫たちよ。妻を愛しなさい。」 「夫たちよ。妻を愛しなさい。」それから、パウロは妻たちに言います。

「妻たちよ。夫を敬いなさい。」 (エペソ 5: 33 参照)

それだけ？ 一度だけです。単語がたったの5つくらい。「では妻たちよ。自分の夫を敬いなさい。」ほんとですか？ こういう仕組みです。夫がそのように妻を愛するなら？ 神が彼女を組み立て、彼女を作り、創造されたやり方では、彼女はその愛に比例して、夫を尊敬するのです。男性方、正直になりましょうよ。「私たちは妻たちに尊敬してほしい。」「女よ。私を尊敬しなさい!」そんな風に言ってはいけません。パウロが夫に「妻を敬いなさい。」と言わないのは、面白くないですか？ いいえ、神はそうには 創造されませんでした。これは結婚についての学びではありません。私はこれを使って言おうとしている事がありますので、ご辛抱ください。使徒パウロが夫たちに言っていることは 基本的にこうです。あり得ない。絶対にあり得ない。チャンスはゼロです。可能性はほとんどなく、無きに等しい。ですから、その確率を計算して下さい。あなたが妻の事をそんな風に愛せるわけがない。でも、一つ方法があります。あなたがそのように 彼女を愛することができる唯一の方法は、神から来る愛によって、です。その愛は、彼女をその様に愛せるように、あなたの内に住まわれる聖霊によって、神が あなたに与え、あなたに持たせてくれるものです。それが唯一の方法です。時々私は楽しんで、、、ある時、ある結婚

式で ちょっと問題を起こしてしまいました。新郎に質問して困らせてしまったからです。二人が前にいて、家族や友人が揃っていて、そして私は新郎に言ったのです。私はエペソを読みました。「夫たちよ。妻を愛しなさい。」それから私は彼に尋ねました。「あなたはそれをどうやってするつもりですか？」彼は私を見て、「今、何と仰いましたか？」と。私は、「どうやって彼女をそんな風に愛するのか？」と。彼は、「分かりませ〜ん。(涙)」私は言いました。「どうやってその様に彼女を愛するか教えてあげましょう。」「聖霊によってです。それが、あなたが彼女を愛することができる唯一の方法です。なぜなら、聖霊の実は愛ですから。それがその実なのです。だからイエスは仰ったのです。

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ 13:34)

そして 35 節で、イエスはさらに仰っています。

「互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、全ての人が認めるようになります。」(ヨハネ 13:35)

そうやって人々は知るので。「車のバンパーに、クリスチャンのステッカーが貼ってあるからではないのですか？」「違います。」人々はそうやって知るものではありません。「それは私が教会に持って来る、聖書のサイズではないのですか？」「違います。」「聖書がいかに摩耗しているからではなく？」「違います。」それがリトマス試験ではありません。リトマス試験は、私がどのようにあなたに接するかです。私があるあなたをどれだけ愛しているか。私がどれだけあなたに親切なのか。そして、それは愛の実から来るものではないですか？ 穏やかさ、親切、善意、柔和、に、に、に、忍耐(寛容)、自制。皆さんが私に、私たちクリスチャンにとって、最も必要なものとまでいかなくても、最も必要なものの一つは何だと思おうか、とお尋ねになるなら、これでしょう。すなわち、お互いを愛し、お互いに親切であること、そしてお互いに同情心と慈悲を持つこと。その理由は次の通りです。私たちは危険な時代に生きています。ところで、私たちは実際、これを 第一テモテと第二テモテで学ぶつもりです。私たちが生きている時代は、不親切であることが最も許されない時代です。互いへの愛を持たず、互いにあわれみ深くしない事が。そして皆さん同意されると思いますが、今の世界で起こっている事は 深刻に懸念されるものです。私たちが愛をもって、親切で、優しく、寛容で、思いやりを持って、あわれみ深くならねばならぬ時があるとすれば、それは今です。私たちの前にある聖書箇所に入ります。ここで使徒パウロは、テモテに手紙を書いていて、私はこれが大好きなんですが、彼は愛情を込めて、テモテのことを「信仰による真実のわが子」と呼びます。その理由を理解するには、使徒の働きの中にある記述を見れば分かります。パウロが、リステラでテモテに初めて会った時の事です。パウロはテモテを指導し、彼にとっては霊的な父親のようであり、テモテの信仰の父となりました。そして、パウロは彼に言います。

「父なる神と私たちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安がありますように。キリストは私たちの救い主であり、私たちの望みであり、私たちの主です。(テモテへの手紙 第1章1参照)

大体すべてを網羅してます。しかし、興味深いのはここです。これは、私たちが聖書の学びで見てきたように、他の教会に対するパウロの通常の挨拶とは異なっています。彼の典型的な挨拶は「恵みと平安」です。ある人はそれらを シャム双生児(結合双生児)と呼びました。そしてそれは、いつもその順番で、決して「平安と恵み」ではなく、いつも「恵みと平安」なのです。それには理由があります。あなたが神の恵みを知ると、神の平安と神からの平安が与えられるのです。「恵みと平安」です。しかし、面白いことに彼は、信仰による真実の子であるテモテに、「恵みと平安」と言って挨拶をしないのです。パウロは、「恵みと、あわれみと、平安」と言います。そこで疑問になるのは、なぜパウロは恵みと平安に

「あわれみ」を加えるのかということです。特筆すべきなのは、二通だけ、「恵みとあわれみと平安」と書かれている手紙は、テモテへの手紙とテトスへの手紙で、私たちはそれらをよく牧会書簡と呼びます。その理由は、テモテもテトスも牧師だったからです。お聞きください。私が考えていることは、次のとおりです。なぜパウロが、「恵みとあわれみと平安」と言ったか というと、テモテもテトスも牧師であり、牧師たちは本当に憐れみを必要とするからです。こう言うと、都合のよい事を言っているように聞こえるかもしれませんが、牧師の立場で言えば、牧師は誰よりもあわれみを必要としています。理解するのが重要なのは、この「あわれみ」という言葉は、原語では、親切さや 同情心という概念が含まれています。つまり、本当に困っている人への気遣いを見せて、パウロは神のあわれみを表現しているのです。パウロはテモテに、「信仰による真実のわが子よ、あなたに恵み、あわれみそして平安があるように」と、言っているのです。私はあなたが深刻な必要性を 抱えていることを知っているから。テモテよ。私はあなたに同情している。あなたには神のあわれみが必要なのを 私は知っている。私が申し上げたいのは、牧師であろうとなかろうと、この「必要性」がある、という事で、やはり、思い切って言うならば、それは 私たち信者にとっての最大の必要性です。そしてそれは、あわれみ深く、同情し、互いに親切にすることです。ただ優しい言葉をかけるだけ優しい言葉一つあれば、私は一ヶ月は頑張れると思う。優しい言葉一つで....私がこう言ったらどうでしょうか？ 我々がどれくらい互いに 憐れみ深くするかによって、我々に示される憐れみが決まる、と。本当ですよ。赦すことに關しても同じです。私たちがどの程度赦すかによって、我々が受ける赦しが決まるのです。イエスは私たちにそのように祈ることを 教えられたのではありませんか？ そして、私に言わせれば、私たちが間違っって「主の祈り」と呼んでいるもの、それは本当の意味で主の祈りではありません。主の祈りはヨハネの福音書 17 章にあります。この祈りは、実際には、イエスが教えてくださった「私たちの祈り」です。

「天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。」 マタイ 6 節 12 節では、イエスは このように祈るようにと云われます。

「私たちの負いめをお赦してください。私たちも、 私たちに負いめのある人たちを赦しました。」

別の翻訳では、

「私たちの過ちをお赦してください。私たちも、 私たちに過ちを犯した人たちを赦しました。」

マタイによる福音書 5 章 7 節。 —the Beatitudes— 八福の教え。おもしろくないですか？ それは“Do-attitude (行うべき姿勢)”ではなく、“Be-attitude (あるべき姿勢)”と呼ばれています。ちょっと変なのは分かってるんですけど、これは「あなたが何を行なうか」ではなく、「あなたがどういう人であるか」です。適切な英語でないことは分かってますので、Eメールは送らないでください。私たちは「あわれみ深さを行う」のではありません。私たちは「あわれみ深くある」のです。イエスは「あわれみ深い者は幸いです」と言われましたが、その理由を知りたいですか？「その人たちは、あわれみを受けるからです。」ほんと?? 憐れみ深くある事によって私に与えられる恵みは、私が憐れみを受けるという事なのです。ええ、いかがですか？ 「うわー、私はあわれみを受けたいな。」あわれみ深くありませんか！ 意地の悪い言い方ですが、もう一回言わせて下さい。テイク 2、哀れみ深くなってね... この方が良いですか？ ルカ 6 章、これは面白い節ですね、36 節から 38 節まで読んでみます。これは献金という文脈で教えられる事が多いのですが、皆さんもおそらく、そう教えられているのを 聞いたことがあるでしょう。私には、そうは取れません。ここで私に見えるのは、「憐れみ深くなる」という文脈です。ルカ 6 章 36 節、イエスの言葉に 耳を傾けてください。

ルカ 6 章

36 あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くなりなさい。

37 節 a さばいてはいけません。そうすれば、あなたがたもさばかれません。

ここにある等価性を見てください。釣り合いのとれた反応。イエスは言われます。

37 節 b 人を不義に定めてはいけません。そうすれば、あなたがたも不義に定められません。

そして、イエスはそれを逆にし、

37 節 c 赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦されます。

38 与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。

詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量って懐に入れてもらえます。

あなたがたが量るその量りで、あなたがたも量り返してもらえるからです。

気づかれましたか? 皆さんも私みたいな人間であるなら、たぶんそうだと思いますけれど... これはいつもお金を求める人たちに引用されます。「だれか、イエスの名によって、1,000 ドル献金しようとしている人がいる!」「あなたが与えれば、あなたも与えられます! 押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして!」待って、調べてみるから。違う翻訳ですから。何かあるか見てみましょう いや、お金じゃないですよ。慈悲です。あわれみ... イエスが言っているのは、あなたが使う量りが、受ける時にも使われる量りになるという事です... ある人が送ってくれたのですが、一しくじらずに言えればいいのですが... 一賜物なんです。私はメモしてなかったら、引用を台無しにする賜物があるんです。こんな感じです。ある日、あなたが目覚めた時に、前日神に感謝した物しかなかったら どうでしょう? なんとということ!... 見方が変わりますよね? 言い換えれば、ある朝起きて、私が使ってきた量りと全く同じ量りが、私に対して使われてきたと気づいたら、どうでしょうか? 私は今、すごく罪を自覚させられましたから、箴言 11 章 17 節に移りたいと思います。私たちは箴言の学びを終えたところです。本当にすごい書ですよ? 11 章 17 節を聞いてください。

箴言 11 章 17 節

「慈しみ深い人は自分の魂を益し、残酷な者 [あわれみのない者] は自分の身に煩いを得る。」 (新共同訳)

言い換えれば、あなたが慈悲を示さない時、あなたが無慈悲で残酷な時、あなたがそう行ない、そうであるのは、あなた自身に危険を招いている事なのです。そして逆に。。。だから私は 対照的な箴言が大好きなのですが、この書を通して学んだように、義と不義の対比があります。善と悪の対比があります。愚かさとは知恵の対比。知恵とは何ですか? 知恵とは..... ヘイ、あなたは自分の魂を祝福したいですか? 私はそうです。私は祝福されたいです。聞いて下さい、私が朝起きた時に 一番最初に考える人物は、この私です。ここに立って、「いつも皆さんのことを考えていますよ」と言いたいけれど、それは不正直ですよ。事実じゃない。私が一番よく考える人物は、私です。あなたもそうなのだから、そんな高潔ぶった目つきで見ないでください。私は祝福されたい。私は自分の魂に益となるものが欲しい。そうですか、いいですよ。ならば、あわれみ深くなりなさい。私の言い方もだんだん上手になってきましたね。「あわれみ深くなるんだよ。」ミカ書 6 章 8 節。これはほとんどの人が知っているものだと思います。そこから歌が作られてます。間違いなく、私たちはそれを暗記し、引用したことがあるものです。それは実際、非常に奥深いものです。なぜなら、その預言者は基本的には こう言っているからです。

神は彼に、良い事、そして 求められてさえいる事を啓示されました。そしてこれが私と、私の人生のための 神の御心なのです。

「主はあなたに告げられた。人よ、何が良いことなのか、主があなたに何を求めておられるのかを。それは、ただ公正を行い、誠実(いつくしみ)を愛し、へりくだって、あなたの神とともに 歩むことではないか。」(ミカ書 6 章 8 節)

それが、神の求められているものです。それが良いことです。それはあなたにとって良い事です。神はこれが良いことだと示されたのです。事実、それはただ良いというだけではなく、実際には要求されている事なのです。これが主が私に要求しておられること。公正を行う。どんなに難しくても、公正を行いなさい。正しい事をしなさい。そして、いつくしみを愛しなさい。それは興味深いですね。と言うことは、ここにある言外の意味は、私が実際に、いつくしみを愛さない事があり得る、ということですか? はい、もちろんです。どういう意味ですか? 私たちは、考えてみたら、あまり憐れみを大切にしてません。私達は、神の目から見て、憐れみが、重要性や、優先順位の上位に来るとは考えていません。何年も前、実際、私が信者になって そんなに経っていなかった頃のことです。「何年も前」という言い方をしたいのは、38年前とか言うと、本当に老けた気がするからです。だから、何年か前に、と言っておきます。私が信者になりたての頃、私の語彙がすっかり変わりました。聖霊による再生です。あなたを内側から変えるのです。聖霊は私を変えて下さいました。やれやれ。聖霊が変えねばならない事が、私にはたくさんありました。聖霊が私を変えねばならなかった事の一つは、私の語彙でした。私はいつも、誰かに返事をする時には、「Oh Gosh!(すごいなあ)..」というような事を 言っていました。そして、私はあまりいい気持がしなくなりました。なぜなら、それはただ、何と言うか、多分もっとコーシャー的な、許容される言い方なのでしょうが、「オオ、ゴッド!」と言う代わりのもので、それが不適切だとされる理由は明らかだと思います。それで、私は「My Gosh!(すごい)」と言うのが落ち着かなくなると、「Mercy!(すごい)」と言い始めました。するとそれは全てを変えました。それは会話の雰囲気を変え、私を変えてくれました。そして、私が「Mercy」と言う言葉を使っていた相手にも影響があったと思います。Oh Mercy! Mercy Me! Mercy! Mercy! (訳注: 驚きを表す表現。Mercy=あわれみ) なぜなら、そう言う時に、あなたが言っているのは、「Oh My Goodness!» (なんといいことでしょう!) これは神の憐れみ(mercy)を必要とする、状況であり会話なのです。それは神のあわれみに対する 高い評価であり、感謝なのです。ヤコブへの手紙第 2 章 13 節、これは興味深いです。ヤコブは書いてます。

ヤコブへの手紙第 2 章 13 節

「あわれみを示したことがない者に対しては、あわれみのないさばきが下されます。あわれみがさばきに対して勝ち誇るのです。」

これについて考えてみてください。それは神の裁きではありません。それは神の優しさであり、神の憐れみです。もし、私たちが愛するために頼る源が 神のものであるならば、私たちが憐れみのために頼る源もまた 神のものであると考えるのが 自然ではないでしょうか。つまり、ローマ人への手紙 2 章 4 節にあるように、あなたを悔い改めに導くのは、神のいつくしみ深さです。そこに書かれていない事にも留意しましょう。「それは神の裁きだ!」とは書かれていません。「神の律法が!」悔い改めに導くのだ、とも。違います。それは神の優しさです。それは神の慈愛です。私はこのように考えていました。実は、預言アップデートでも 言いました。神の律法である十戒が、私たちを映し出す鏡に 例えられているの

をご存知でしょう。このように言わせてください。十戒は私たちがそれらを守るために 与えられたものではありません。守るのは不可能です。 でしょ？ 第一の戒め？私はすでにそこで捕まり、有罪となります。第二の戒めは？ 有罪です。第三の戒めは？ 有罪、第四の戒めは？ 有罪です。第五の戒め、本当に有罪。第五の戒めが何か、ご存知ですよ？ 私の両親は私にそれを暗記させました。

「あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである」。(出エジプト記 20章 12節)

祝福と約束が伴う唯一の戒めです。他のものは基本的に「汝、するべからず！ さもなくば、死ぬことになる！」です。十戒全部に対して、有罪。では、この律法は何のためにあるのでしょうか？ それは私たちが守るためではありません。それは、私たちには絶対に守れない、と悟るためのものです。なぜなら、私たちが、神がご覧になるように、完璧な律法、神の律法の鏡を通して自分自身を見た場合、我々は自らが いかにも不十分であるかが分かります。今、突然、私たちは救い主を求め始めます。その時、聖霊がやって来て、後見人や養育係のように、私たちの手を引いて、「わたしに従いなさい」と言うのです。私をどこに連れて行くの？「あア・・・(笑) どういう状況になってるか、分かるね？」はい。私はもう完全におしまいです。まあ.....それは良くないユースですが、そこが肝心なのです。なぜなら、神の律法を知った今、あなたは神のあわれみを受ける準備ができていますからです。そして、養育係は私たちの手を引いて、救い主のもとに連れて行きます。そこで私たちは、恵みとあわれみを見出すのです。それが神の憐れみです。それが私たちを変えるものであり、私たちを悔い改めに導くものなのです。もう一つ、結婚から例をとります。今日は結婚をいじっています。今日は妻がいないから、いいんです。話の筋は次のとおりです。夫と妻がいます。あなたは衝突して、口論しています。木曜の夜に言いましたが、妻と結婚して今年32年目を迎えました。私たちはもう喧嘩しません。木曜日の夜の反応は、今と大体同じで、みんながハッと息をのんで、「しないの?」「そんなことがあり得るのですか?」可能なのですが、あなたが思っているような理由からではありません。私がつっても敬虔な夫だからではありません。私達の夫婦関係はつっても神の御心に沿うものだ。現実には、私たちは自問せねばならない年齢に到達しているんです。「私にはそのエネルギーがあるかな?」息子のレビにこれを話したのです。レビが尋ねてきましたから。子供たちみんなそう思っているのですが、「パパとママはとても仲が良いよね。」「うん、だってパパは...」彼らはよく分かっています.....私は彼らに言いますが、その理由は、ただ、私たちにはもう気力がありません。本当です。もう疲れちゃって。と言うのも、状況を見て、考えます。「う〜ん、私は本当に...したいかな?」「いいや、大丈夫だよ、ハニー、いいんだよ。」それだけ!火に薪を追加しないとどうなりますか? 消えてしまうのですよ。これもまた、箴言にあります。(箴言 26:20 参照)そこで、結婚からの例です。あなたたちが.....(どうやって言いたいですか?) ある人が言ったように、私たち牧師はそれを「張り詰めた交わり」と呼んでいます。それは口論と呼ばれるかもしれません。あなたがたは夫婦喧嘩をしています。衝突です、OK? そして、あなたは自分の立場を貫こうとしています。「ああ、そうかい? 俺が? お前はどうかだ! ?自分の事を棚に上げて、よく言うな!」つまり.....うアー..... もうおしまいだ!! 薪どころじゃありません。ガソリンスタンドに行って、ガソリンを注げばいい。仮に.... いいですか、「俺が!? お前はどうかだ!」と言う代わりに、夫の皆さん、あなたが奥さんにこう言ったら? だって、あなたはリーダーでしょう? 「ああ、俺たちは家庭のリーダーになりたい。」対立になったら、あなたがリードしたらどうです? より高尚な道を選んで。ですから、「俺が? お前はどうかだ?」と言う代わりに、「ハニー、君の言う通りだ」と言ったらどうでし

よう。「ごめんよ。」「面目ない、許してくれるかい？」彼女はこんな風に反応するかもしれません。「あなた、私の夫に何したの?」「あなたは誰?何が欲しいの?」それは、どれほど普段の振舞いと違っているでしょう? 違うべきではありませんが。それが憐れみというものです。それが優しさというものです。それは謙虚さというものです。謙虚さ。コロサイ人への手紙 3 章 12 節から 14 節。パウロが書いています。パウロはこう言っています。

コロサイ人への手紙 3 章 12 節

「ですから、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として」”着なさい。”

いくつかの翻訳では、「身に着けなさい」となっています。言い換えれば、朝、服を着るとき、ここにあるのは衣服です。霊的な領域でこの比喻が使われています。これらは、身に着けるべき霊的な服です。いいですか? 私たちは、めかしこみますよ。私たちは本当におしゃれをするのです。私たちは 盛装しますよ (dressed to the nines)。“to the nines”が何を意味するのかわかりませんが。私たちは完全に、徹底的に盛装しますよ。本当に。最高級の最も洗練された服で。「霊的に」です。それらが何であるかを知っていますか? 深い慈愛の心、[ただの慈愛ではなく、深い慈愛] 親切、謙遜、柔和、寛容 (long-suffering)。“long-suffering(寛容)”とはどういう意味でしょうか。長く苦しむ (suffering long) という意味です。奥深いでしょう?..でも..私は原語で調べてみました。long-suffering(寛容)とはどういう意味か。それは、「長く苦しむ」という意味です。その件については聖霊様にお任せします。13 節は、「互いに忍耐し合い、互いに赦し合いなさい。」「だれかがほかの人に不満を抱いた」ら、ソーシャルメディアに投稿し、悪口を言いなさい! そんなことは書いてません。電話をかけて、「誰か分かるでしょう、〇〇姉妹よ...信じられる?」うそ! ほんとはよ! まさか! ほんとなのよ! ホォー! そして彼らが他の誰かに電話をして、気づいた時には、その人は救われてないと言う話にまでなっています。

13 互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。

しなさい! これは提案ではありません。これはまたしても必須要件です。これが私たちのやるべきことなんです!!

14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全です。

もう一步進めると、心の目で、あなたの持ち衣装の中で一番上等な服を着ている姿を想像してみてください。そして最後に身に着ける衣服、それですべてが決まるのです。それは調和がとれていて、全体をまとめます。あなたは素晴らしい格好ですね。それは愛です。それは愛です。完璧な一致。世間が私たちを見るとき、彼らが見たり、言ったりすべき事は何か? それは、初代教会についてキリスト教徒でない人たちが言ったり見たりしていた事です。「なんとまあ、彼らはすごく互いを愛し合っている。」と言われていたのです。愛は多くの罪を覆う。(1ペテロ 4:8 参照) 優しくあること、優しい言葉をかけるだけ。皆さんも同意していただけるでしょうか? 誰かが親切であわれみ深くし、思いやりを示し... ただ思いやりを示すだけでも! 思いやりとは何か知っていますか? 思いやることです。他の誰かのことを考慮する事です。私たちは、自分のことではなく、他人のことをもっと高く評価すべきです。大事な事です、神がこんな風に言ってるとは一瞬たりとも考えないで下さい。「こうしないとダメだ! さもなくば...!」「こうしないとダメだ。わたしは神だ! そのわたしがそう言ったんだから!」そうではありません。もっとこんな感じです。もっとこんな感じで。。。「わたしはあなたをとっても愛している。」「わたしはあなたが不必要に、いたずらに苦しむ姿を見るのに耐えられない。」「だから、

わたしはあなたにこの指令、この戒めを与えよう。それがあなたの益となるように。「それは、あなたの益となるのだ。」ある人は十戒(テン・コマンドメント)を「優しい戒(テンダー・コマンドメント)」と呼んでいます。神はこう仰っているのです。「あなたには、わたし以外に、ほかの神々があつてはならない。」なぜなら、彼らは神などではないから。そして彼らは決してあなたを助けてはくれないから。それらは神ではなく、わたしがあなたがたの神なのだ「姦淫を犯してはならない。」神であるわたしがそう言ったからではなく、わたしはあなたをととても愛しているから、あなたがそれをしてしまったら、あなたの身に起こる事を見るに耐えられない。「殺して(殺人を犯して)はならない。」なお、単に「殺す」ではなく、「殺人」です。なぜでしょうか？なぜなら、その殺人行為のせいで、だれかが一生涯、悩み続け、追われ続けるのを見るのが耐えられないからだ。「欲しがってはならない」なぜですか？それはあなたを痛めつけるからだ。それは、あなを内側から蝕む事になる。わたしには我慢できない...わたしはあなたを守ろうとしているのだ。わたしはあなたのことを、とても愛しているのだ。神が離婚を憎む理由を知っていますか？この話をしたのは先週でしたか？はつきり思い出せませんが。ある時、娘に聞かれました。「何について教えたの？」私ときたら...忘れてしまった！つい先週のことなのに。自覚してます。段々ひどくなってますよね... 主よ、早く来てください。神が離婚を憎む理由を知っていますか。それは、離婚によって、離婚した本人たちの身に起こる事のためです。間違いなく、その子どもたちにも。神は離婚した人たちを憎んでいるのではなく、神は離婚を憎むのです。なぜなら、離婚が離婚した人たちにもたらす不幸を見るのに耐えられないからです。地上の親として、子どもたちや、孫たちの事を思って、その事を考えてみてください。箴言には、「孫たちは”猫の鳴き声(*最高のもの)”」とあります。(箴言 17:6 「孫たちは老人の冠」)私は、この慣用句とか比喩とか、何であれ、それらがどこから来たのか知りませんが使い続けています。だから、そんな言い方をするのが悪い事ではないとことを願います。でも、私たちはまだそこまでは到達してません。その前に主が戻って来ることを願います。でも、聞くところでは、孫はとても素晴らしいみたいです。孫は多くの喜びをもたらしてくれます。その理由は、孫は後であなたの子供に返せるからです。私はまだその喜びを味わってませんが、主が遅れるようなら、楽しみにしています。だって、私が思うに神の公義とはまさにこの事ですから。私は「だから言っただろう」って言えるんです。私が子どもだった頃を思い出します。母はきつい誹りで、私に言ったものでした。甲高い声で。「ワヒドー！自分の子供ができれば分かるわよ。」私は、はい、はい、どうでもいいよ。そして私も親になりました...なんということでしょう。で、私たちはどうしたでしょう？私も自分の子供に同じことを言っています。「自分の子供ができれば分かるから。」私は長生きするから。君らに思い出させるために。「ほら、言っただろう？」と。私たちは、地上の親として、自分の子供に対して、どうでしょうか？私たちは、彼らを不必要な痛みや苦しみから守るために、手段を選ばず何でもするのではないですか？ 私たちにそう事が出来るのならば。なぜでしょうか。なぜなら、私たちは彼らをととても愛しているからです。こうしてはいけないよ。その理由はね...それは親である私がただそう言ったからではないのだ。私たちは親として、そうしますよね？子供たちは、幼いうちは、よくこう言いますから。「なぜ?」「私がそう言ったからだ！だからだ。」それは良い答えではありませんよね。“なぜ”の背後にある理由とは何でしょうか？私は神から与えられた親の権限を否定しているわけではありません。しかし、時には、私たちが子供をその行く道にふさわしく教育する時に、指示を得るのはそこなのです。箴言 22 章 6 節です。主の訓戒への恐れ。皆さんは、「訓戒(discipline)」と言う言葉が「弟子(disciple)」から来ている事を知ってますか？訓練する、訓戒(discipline)、弟子

(disciple)、教育する。時々私たちは、この「教えるのに良い機会」と呼ばれるものを逃していると思います。繰り返しますが、今日は子育てや結婚に関する教えではありませんが、しかし、時には座って「これがその理由なんだ」と説明する必要があります。これは私の娘の話なのですが、特に彼女は今13歳ですから、アア、その前に主が来てくださることを祈るばかりなのですが、ところで、.....主が遅くなるなら、私は娘とデートするための申込書を用意してあるんです。もう聞いてますか？ 50ページくらいの長さです。オンラインでできるように、入力可能なPDFファイルになってます。質問の一つに、あなたは狩猟が好きですか？とあります。あなたは銃を恐れていますか？とにかく。。。彼女はどんな男子にもこの申込書を渡さないといけません。彼女が30歳になってからですけど。とにかく...脱線しました。しかし、地上の親である私たちは、子どもたちを愛するがゆえに、どれほど子供を守りたいと思うのでしょうか？なおさら、私たちの天の父はどれほどでしょうか。子供が小さいうちは、彼らはよく喧嘩しますよね？息子のエリアスとレビが子供の頃はいつも喧嘩をしてました。イエス様、どうか止めてくださいと祈ったのを覚えています。もうだめだ、我慢できない。私の反応は....これはやはり、私がまだ若くエネルギーがあった時代のことですが、私は中に入って行って...「大人になるまで外出禁止だぞ！」今は、むしろ泣きます。息子たちは私を見て、「俺たちがパパに何をしたか見てみる。」そして彼らは喧嘩を止めるんです。私は、上手くいった！って感じです。何年も前にこれを思いついておけば良かったなあ！それは、ただただ心が痛むことです。なぜ？私は、彼らのことをとても愛しているからです。彼らは、お互いに敵対して、争っている。ただただ、心が折れそうになります。神の心はいかほどでしょうか？神の子どもが争えば...私たちはキリストにある兄弟姉妹なんですよ？こんなふう考えたことがありますか。私たちはキリストにある兄弟なのだと。そういう風に言う理由は、「兄弟間の競争意識」というものがあるからです。そして私たちはキリストにある兄弟姉妹として争うのです。私はこの教えのために主の前に心の準備をしていましたが、これは私がとても無力に思える教えの一つです。なぜなら、それは、とても重要な原則と真理であるからです。そして今のような時に何と折よいものなのでしょうか。兄弟姉妹の皆さん、私はあなたのキリストにある兄弟です。そのように私を見てください。皆さんが私を牧師として見ているのは知っていますが、私をキリストにある兄弟として見てください。私はただ皆さんにお願いします。互いにあわれみ深くなってください。ただ、お互いを愛し合ってください。お願いします.....最後は例話で閉じたいと思います。最初にこれを聞いたのは25年前かな？ずいぶん前です。私はこれが一番よく言えてると思います。皆さんは異なるバージョンのものを聞いたことがあるかもしれません。もっと長いものもありますが、基本的にはこんな感じです。最近、歩いて橋を渡っていたら、飛び降りようとしている男を発見した。それで当局が来るまで引き止めようと思って、「跳ぶな！」と叫びました。「どうして？私は誰にも愛されてない」と彼は言いました。私は、「神はあなたを愛している！」と言いました。「あなたは神を信じていますよね。」「はい、私は神を信じていますよ。」と彼は言いました。「良かった！」私は言いました。あなたはキリスト教徒ですか、ユダヤ教徒ですか？「クリスチャンだよ」と彼は答えました。「私もです！」と私は言った。「プロテスタントかカトリック、どっち！」「プロテスタント」と彼は言いました。「私もそうです！」「聖公会派ですか、バプテスト派ですか？」「バプテスト」「うわー！私もそうです！」「あなたは神のバプテスト教会ですか、それとも主のバプテスト教会ですか？」「神のバプテスト教会」「私もそうです！」「あなたは元々の神のバプテスト教会なのか、それとも改革派の神のバプテスト教会なのか？」「改革派の神のバプテスト教会」「私もだ！」「1879年の改革派の神のバプテスト教会ですか、1915年の改革派の神の

バプテスト教会ですか？」彼は「1915年の改革派の神のバプテスト教会」と答えました。私は、「異端者!!」と言って彼を突き落としました。ああ、私たちは笑いますが、しかし、それが現状ではありませんか？ その結末で終えるのは申し訳ないですけど、要点はわかったと思います。私たちはそうやってお互いを扱うのです。憐れみ深くなってください。お立ち下さい、祈ります。

主よ、感謝します。ユーモアは良いですが、同時に、これは冷静な反応を必要とする深刻な真実です。主よ、私は祈ります。私自身もここに含めますが、私たちが皆、あなたに私たちの心に無制限に入っただけ、私たちの心を探っていただけますように。私たちがあなたを知り、あなたの声を聞き、あなたを愛することを妨げているものが少しでもないか、知るために。主よ、私たちの心に宿っているもので、あなたが取り除きたいものがあるなら、あなただけが出来る方法で…あなたはつねに優しいお方ですので、あなたの御言葉のメスで切断し、取り除いてください。ああ、神よ。なぜなら、私たちは、あなたの心を悲しませるようなものは、何も欲しくありませんから。主よ、感謝します。この先、私たちの人生の限り、聖霊様が引き継いで下さることを祈ります。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7